

○破壊が始まった点が震源という説明があったが、破壊が始まる場所と力が加わっている場所は、必ずしも一致しないのではないか。力が加わっている場所に名前はないのか？

→強弱の違いはあれ、地球上のあらゆる場所で力は加わっている。力がその場所の地盤の強度を上回ると破壊が生じる。破壊が生じた範囲（割れ目）は震源断層と呼ばれる。

○豪雨の後の中継などで、道路が浸水している様子がよくみられるが、それは内水氾濫によるものなのか？

→必ずしも内水氾濫とは限らず、外水氾濫であった可能性もある。外水氾濫は津波のように勢いよく溢れると話したが、溢れて周囲に水が広がった後は、水の流れは収まるので、氾濫後ある程度時間が経った状況では、内水氾濫か外水氾濫かを道路の様子だけからでは判別は難しいと思う。

○震度は国によってばらばらのことであるが、世界共通の基準で示すことはできないのか？

→不可能ではないであろうが、現在のところ共通化されていない。規格を世界的に共通化することは大変なので、よほど大きな利益がない限り、なかなか共通化されない。

○安定陸塊では地震が起こらないと聞いたがそうなのか？

→安定陸塊ではほとんど地震は起こらない

○震度の基準はいつ頃決められたのか？

→震度の観測は日本では 1884 年から始まったが、現在の震度階級と同じ 7 階級になったのは 1898 年からで、地震計で計測した震度になったのは 1996 年からである。

○兵庫県南部地震の時、大教大で震度 3 程度であったのであれば、南海地震が起きても大丈夫か？

→そうとも限らない

○日本以外の国でも気象庁マグニチュードを使っているか？

それともそれに代わるものがあるか？

→おそらく日本以外では使われていない。モーメントマグニチュードやそれ以外にもいくつかマグニチュードの算出法はあるので、それらを使っていると思う。

○マグニチュードの話で、変位量がよく分からなかった。

→地盤の破壊によって、震源断層に沿って地盤がずれる（変位する）このずれの量が変位量になる。

○震度のポスターが欲しいがどこでもらえるか？

→気象庁の HP にポスターの PDF ファイルがある

(<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/shindo/shindokai.h>

tml, 気象庁ホーム > 気象等の知識 > 地震・津波 > 震度について)。

○震度 7 を超える大きさの地震が起これば、将来、震度 8 ができるのか？

→できるかもしれないが、地球の地盤の物性から震度 7 が上限と考えられている。

□地震で揺れている最中にジャンプし続け空中にいる時間を長くしていると揺れを感じずにいられるか？

→いられない